

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数 又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復師科 午前・午後コース (3年制)	夜・通信	1,350	80×3=240時間	
	鍼灸師科 午前・午後コース (3年制)	夜・通信	1,425	80×3=240時間	
	理学療法士科Ⅰ部 (4年制)	夜・通信	1,065	80×4=320時間	
	理学療法士科Ⅱ部 (4年制)	夜・通信	1,125	45×4=180時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。 <a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/syllabus/">https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/syllabus/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.jikeigakuen.ac.jp/information>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和6年6月1日～ 令和9年5月31日	地元(江戸川区)の名士として学校と地域の連携を図る。
非常勤	株式会社役員	令和6年6月1日～ 令和9年5月31日	地元(北海道)の名士として学校と地域の連携を図る。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>柔道整復師科 午前コース・午後コース(昼間部3年制)、鍼灸師科 午前コース・午後コース(昼間部3年制)、理学療法士科 I部(昼間部4年制)、理学療法士科 II部(夜間部4年制))</p> <p><b>【作成について】</b></p> <p>各授業科目については、養成校指定規則に則り、各学科の部署会議において授業科目の設定・講義内容についての検討・検証を授業アンケートや教育課程編成委員会からの意見を検討した上で各授業を担当する教員により作成を行っている。</p> <p>学内の教員用内規(シラバスハンドブック)の中で、授業科目名、学年、開講区分、担当教員名、必修・選択、授業形態、必要時間数、授業回数、授業の学習内容と心構え、科目到達目標、使用教材・参考文献等、準備学習・時間外学習、授業概要、到達目標(各回でできるようになること)、評価方法、特記事項は、全科目共通で記載することが必須となっており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。</p> <p><b>【時期について】</b></p> <p>翌年度の講義予定(授業計画)は12月～1月に担当教員が作成し、3月の運営会議にて承認されることで正式決定する。翌年度分のシラバスは3月中旬にHP上に公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/syllabus/">https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/syllabus/</a>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)          学則・学則施行細則において、学内の成績評価、履修、進級・卒業要件について規定している。各学科で定める授業科目の試験（レポート含む）により成績評価を行っている。</p> <p>(参考)          学則（単位取得の認定、学習の評価）          第12条 学校長は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況等を総合評価し、該当科目の単位の認定を行う。</p> <p>2 出席時間数が第8条に定める時間数の10分の7に満たない者については、当該科目の単位の認定をしない。</p> <p>3 試験の成績は授業科目ごとに100点満点とし、60点以上を合格とする。ただし、その科目の評価については別に定める。</p> <p>学則（卒業）          第23条 本校に修業年限以上在籍し、所定の課程を修了し、卒業判定試験に合格した者には卒業証書を授与する。ただし、柔道整復師科、鍼灸師科に関しては、実技認定試験（認定実技審査）の合格も要件とする。</p> <p>学則施行細則（卒業・進級基準）          第12条 学期ごとに全科目A～Cまでの評価を得た者は必要単位数取得者となり、進級することができる。</p> <p>2. 卒業時まで全科目を履修し、学年ごとに必要単位数を取得し、卒業判定試験に合格し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。</p> <p>3. 不合格科目（E評価・D評価）が1科目でもある者は留年対象者となる。（特別補講対象者を除く）</p> <p>4. 柔道整復師科・鍼灸師科において、実技認定試験（認定実技審査）に合格した者が卒業となる。</p> <p>5. 柔道整復師科・鍼灸師科において、実技認定試験（認定実技審査）に不合格の者は留年となる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)          成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（いわゆるGrade Point Averageに相当するもの。以下「GPA」という。）を用いている。</p> <p>学業成績は授業科目ごとに実施する定期試験（中間試験、期末試験）によって評価されるが、本校では各授業の評価を100点満点を基準として60点以上を合格としている。合格者の中でも評価点数により100～90をA、89～80をB、79～70をC、69～60をDとして成績が通知される。成績評価に以下の評価点をそれぞれ与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目の総単位数で除して算出する。 A-4.0 B-3.0 C-2.0 D-1.0</p> <p>成績評価方法については、学則、学則施行細則をHPで公開するとともに、学生便覧に明示し、入学時オリエンテーション等で入学生に説明している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/common/doc/about/infomation/2021_evaluation-etc.pdf">https://www.tokyo-medical.ac.jp/common/doc/about/infomation/2021_evaluation-etc.pdf</a></p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>東京メディカル・スポーツ専門学校は、学校教育法に基づき、医療業界、スポーツ業界で活躍する施術・リハビリテーションの専門家に必要な知識、技術を授け、あわせて、問題解決、コミュニケーションに必要な知識、技術を授け社会に有用な人材を養成することを目的とする。</p> <p>卒業要件については、各学科が定める所定の全授業科目をすべて合格することを定めている。詳細については、ディプロマポリシーをはじめ、学則施行細則、学生便覧等に記載している。</p> <p>本校ではディプロマポリシー（をはじめとした3つのポリシー）を策定し、HPに公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p><a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/common/doc/about/infomation/2021_evaluation-etc.pdf">https://www.tokyo-medical.ac.jp/common/doc/about/infomation/2021_evaluation-etc.pdf</a></p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京メディカル・スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.jikeigakuen.ac.jp/information">https://www.jikeigakuen.ac.jp/information</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.jikeigakuen.ac.jp/information">https://www.jikeigakuen.ac.jp/information</a>
財産目録	<a href="https://www.jikeigakuen.ac.jp/information">https://www.jikeigakuen.ac.jp/information</a>
事業報告書	<a href="https://www.jikeigakuen.ac.jp/information">https://www.jikeigakuen.ac.jp/information</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.jikeigakuen.ac.jp/information">https://www.jikeigakuen.ac.jp/information</a>

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復師科午前コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2760 単位時間/単位	1830 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	750 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		112人	0人	8人	23人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 各授業にて小テストを実施し、それぞれの授業内での理解度を確認している。また、定期的に個別相談・指導を担当が実施し、チームとして関わるために学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39人 (100%)	4人 (10%)	32人 (82%)	3人 (5%)
（主な就職、業界等） 接骨院・整骨院／整形外科・クリニック／トレーナー派遣企業／スポーツチーム・スポーツクラブ／機能訓練指導員としての施設			
（就職指導内容） 就職講座、就職行事、履歴書指導、面接指導、個別面談			

(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師、救命講習、柔道(日本伝講道館柔道)
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
148 人	17人	11.5%
(中途退学の主な理由) 学習意欲低下・進路変更・就労意欲喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談・補習による学習支援・カウンセラーを交えた学生支援		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復師科午後コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2760 単位時間/単位	1830 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	750 f 単位時 間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	55人	0人	8人	23人	31人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 各授業にて小テストを実施し、それぞれの授業内での理解度を確認している。また、定期的に個別相談・指導を担当が実施し、チームとして関わるために学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	3人 (15%)	13人 (68%)	3人 (15%)
（主な就職、業界等） 接骨院・整骨院／整形外科・クリニック／トレーナー派遣企業／スポーツチーム・スポーツクラブ／機能訓練指導員としての施設			
（就職指導内容） 就職講座、就職行事、履歴書指導、面接指導、個別面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） 柔道整復師、救命講習、柔道（日本伝講道館柔道）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
59人	3人	5.1%
(中途退学の主な理由) 学習意欲喪失・進路変更・就労意欲喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談・補習による学習支援・カウンセラーを交えた学生支援		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸師科午前コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2655 単位時間/単位	2025 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	450 単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		92人	0人	8人	11人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 各授業にて小テストを実施し、それぞれの授業内での理解度を確認している。また、定期的に個別相談・指導を担当が実施し、チームとして関わるために学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	1人 (4%)	21人 (84%)	3人 (12%)
（主な就職、業界等） 接骨院・整骨院／整形外科・クリニック／トレーナー派遣企業／スポーツチーム・スポーツクラブ／機能訓練指導員としての施設			
（就職指導内容） 就職講座、就職行事、履歴書指導、面接指導、個別面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師・きゅう師・BLS（心肺蘇生法技能検定）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88人	3人	3.4%
(中途退学の主な理由) 学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各学年の対策は下記の通り 1年生 チームビルド・相互支援関係の構築・セルフマネジメントの向上 2年生 国家資格取得のモチベーション対策 3年生 国家資格取得の学習支援対策		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	鍼灸師科午後コース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2655 単位時間/単位	2025 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	450 f 単位時 間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	74人	0人	8人	11人	19人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 各授業にて小テストを実施し、それぞれの授業内での理解度を確認している。また、定期的に個別相談・指導を担当が実施し、チームとして関わるために学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24人 (100%)	1人 (4%)	20人 (83%)	3人 (12%)
（主な就職、業界等） 接骨院・整骨院／整形外科・クリニック／トレーナー派遣企業／スポーツチーム・スポーツクラブ／機能訓練指導員としての施設			
（就職指導内容） 就職講座、就職行事、履歴書指導、面接指導、個別面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） はり師・きゅう師・BLS（心肺蘇生法技能検定）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
68人	4人	5.9%
(中途退学の主な理由) モチベーション低下からの学力不振・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 1年生 チームビルド・相互支援関係の構築・セルフマネジメントの向上 2年生 国家資格取得のモチベーション対策 3年生 国家資格取得の学習支援対策		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法士科 I 部		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	2655 単位時間/単位	2025 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	180 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	450 f 単位時 間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160 人	160 人	2 人	5 人	21 人	26 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第 2 号の 3 【（3）厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
（概要） 各授業にて小テストを実施し、それぞれの授業内での理解度を確認している。また、定期的に個別相談・指導を担当が実施し、チームとして関わるために学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
34 人 (100%)	0 人 (0%)	26 人 (76%)	8 人 (23%)
（主な就職、業界等） 病院（クリニック含む）／保健福祉施設／地域リハビリ支援センター（デイサービス等含む）／スポーツチーム・実業団体			
（就職指導内容） 就職講座、就職行事、履歴書指導、面接指導、個別面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
166人	14人	8.4%
(中途退学の主な理由) 学業モチベーション低下による進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な担任・保護者・本人の三者面談実施		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	理学療法士科Ⅱ部		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	夜	3180 単位時間/単位	1890 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	990 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	300 f 単位時 間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		160人	2人	5人	20人	25人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
（概要） 各授業にて小テストを実施し、それぞれの授業内での理解度を確認している。また、定期的に個別相談・指導を担当が実施し、チームとして関わるために学科長と教務部長と情報を共有し問題などを解決する。教務以外の学費や学生生活なども各部署で相談、解決をする。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	30人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 病院（クリニック含む）／保健福祉施設／地域リハビリ支援センター（デイサービス等含む）／スポーツチーム・実業団体			
（就職指導内容） 就職講座、就職行事、履歴書指導、面接指導、個別面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
137人	5人	3.6%
(中途退学の主な理由) 学業不振・進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な担任・保護者・本人の三者面談実施および授業外の学習支援		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復師科 (午前コース) (午後コース)	100,000 円	1,100,000 円	380,000 円	
鍼灸師科 (午前コース) (午後コース)	100,000 円	1,100,000 円	380,000 円	
理学療法士科 I 部	100,000 円	950,000 円	480,000 円	
理学療法士科 II 部	100,000 円	850,000 円	420,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/">https://www.tokyo-medical.ac.jp/</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営の理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とし、自己点検・評価の結果は学校法人滋慶学園情報公開規定に基づき学校内外に開示するものとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
治療院 経営者	2023. 4. 1～2025. 3. 31	卒業生代表
理学療法士科 I 部学生保護者	2023. 4. 1～2025. 3. 31	保護者代表
高等学校 学校長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	高校関係者
病院 統括部長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界関係者
病院 総務部長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界関係者
治療院 経営幹部	2023. 4. 1～2025. 3. 31	業界関係者
不動産会社 社長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	地域関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/infomation/">https://www.tokyo-medical.ac.jp/about/infomation/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項) 2023 年度 一般社団法人柔道整復教育評価機構の第三者評価を受けた。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.tokyo-medical.ac.jp/">https://www.tokyo-medical.ac.jp/</a>
--



(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113312300138
学校名 (〇〇大学 等)	東京メディカル・スポーツ専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		65人	65人	71人
内 訳	第Ⅰ区分	35人	33人	
	第Ⅱ区分	一人	一人	
	第Ⅲ区分	一人	一人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				71人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	8人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。